



News Letter

医療通訳は医療コミュニケーションの一部

今回は当センターの業務の一つである「医療通訳」について、少し気になっていることをお話しします。それはご依頼をいただく際「医療通訳者であれば、どのような内容でも、その場ですぐに通訳できる」と思われているのではないかと、ということです。

現在では、契約していれば予約なしで、その場で通訳者につながる医療通訳サービスもあります。急な受診などでは大変便利な仕組みですし、当センターでも、初診で問診から始まるような診察であれば、事前の情報がほとんどなくても対応できることがあります。患者さんがどのような症状で受診したのかを、医療者と通訳者が一緒に聞くとところから始められるからです。

一方で、当センターに寄せられる通訳依頼の内容は実にさまざまです。何度か受診している患者さんの診察、さまざまな検査を行った後の病状説明、今後の治療方針についての相談、精神科での診察、心理検査や発達検査の結果説明など、専門性の高い内容を通訳する機会も少なくありません。

「医療通訳者」という名前から、医学や医療について幅広い専門知識を持っている人を想像されるのかもしれませんが。しかし、医療通訳者養成のなかで医学・医療について学ぶ機会はあるにしても、それはあくまで基礎的なものです。通訳者のなかには医療職の経験を持つ人もいますが、もちろん全員がそうではありません。特に、通訳言語を母語とする外国出身の通訳者の多くは、日本語や通訳技術を身につけ、さらに日本の医療制度や医学用語を学んできていますが、医学については一般の人と同じところから学び始めています。

だからこそ、通訳者は準備をします。

どのような症状があって受診したのか。どのような病気を疑って、何の検査をしたのか。その結果、どのような見立てになったのか。そして今日、患者さんに何を説明し、何について相談する予定なのか。こうした情報が事前に少しでも分かっているならば、疾患や検査、治療法について調べ、日本語と通訳言語の双方で必要になる用語や表現を確認してから通訳に臨むことができます。考えてみれば、これは医療の世界では決して不思議なことではありません。

当センターでは、外国人からの相談を受け、受診できる医療機関を探すことも日常的に行っています。特に救急と思われる症状で救急外来に問い合わせたとき、「今日はその症状を診られる専門の医師がいないので」と受け入れを断られることがあります。こちらとしては、「まずは救急として診てもらい、必要であれば専門の診療科につないでもらえないだろうか」と思うこともあります。しかし、医療には専門性があり、自分の専門ではない領域について簡単に「診られます」とは言えない、それもまた、医療の安全を守るための判断なのだと思います。

そう考えると、一方で医療通訳者には、診療科や内容を問わず「今からこの説明を通訳してください」と求めることができる、というのは少し不思議にも感じます。もちろん、医師と通訳者の専門性を同列に論じることではできませんし、通訳者は診断や治療をするわけではありません。しかし、医療者が患者さんに伝えようとしている内容を理解し、それができるだけ正確に別の言語で伝えるためには、通訳者にもその内容を理解するための準備が必要です。

特に、すでに診療が進んでいるケースでは、医療者と患者さんの間には、それまでの診療を通して共有されている文脈があります。ところが、途中から参加する通訳者だけがその文脈を持っていません。その状態で突然、「では検査結果を説明します」と始まってしまえば、通訳者は話を聞きながら、同時に疾患や検査の意味を理解し、適切な訳語を探し、別の言語に置き換えなければなりません。事前に背景が分かっている場合と比べれば、通訳の質や正確性に違いが生じる可能性があることは想像していただけるのではないのでしょうか。

私たちがお願いしたいのは、患者さんの詳しい個人情報を提供してほしいということではありません。また、すべての通訳を何日も前から予約してほしいということでもありません。医療現場では、予想していなかった説明が必要になったり、その場で患者さんに選択肢を示し、意思決定を求めなければならなかったりすることもあるでしょう。そのようなときでも、可能であれば「今日はこういう経緯の患者さんに、このような内容を説明したい」と伝えていただき、30分でも、1時間でも、通訳者が準備する時間をいただけたらと思います。

医療通訳は、単に日本語を外国語に置き換える作業ではありません。医療者が伝えたいことを患者さんに届け、患者さんがそれを理解し、自分の治療について考え、選択するための医療コミュニケーションの一部です。よりよい医療通訳をつくるのは、通訳者だけではありません。医療者から少しの情報と少しの準備時間をいただくことで、通訳者はよりよい仕事を行うことができます。そしてそれは最終的に、言葉の違いにかかわらず、患者さんが安心して医療を受けられることにつながっていくのではないかと考えています。

(事務局長)

今回は
当センターの
英語相談員
松村侑香さんに
寄稿頂きました！

センターでの活動から研究、そして学会発表へ

ー日本プライマリ・ケア連合学会、ACP日本支部年次総会、WONCA Europeー

はじめまして。松村侑香と申します。このたび、AMDA国際医療情報センターの皆様にご多大なるご協力をいただき、これまで蓄積されてきた相談記録を研究としてまとめ、日本プライマリ・ケア連合学会、ACP日本支部年次総会、WONCA Europeで発表することができました。今回は、私がセンターの活動に参加した背景から、研究を始めたきっかけ、そして学会発表を通して感じたことについて書かせていただきます。

幼少期の体験

私は現在、慶應義塾大学医学部6年に在籍しています。外国人の方の医療アクセスに関心を持つようになった原点の一つは、幼少期の海外生活にあります。小学校4年生の時、家族の仕事の都合で、カナダのバンクーバーに1年間住むことになりました。当時、私は英語をほとんど話せず、現地の言葉も十分には分からない中で医療機関を受診したことがありました。その際、現地の医療スタッフの方々がジェスチャーなどを交えながら温かく接し、医療制度や受診方法についても丁寧に説明してくださいました。「言葉も制度も分からない異国の地で医療に助けてもらった」という経験は、今でも強く心に残っています。その経験から、いつか自分が医療を学ぶ立場になったときには、今度は自分が、言葉や文化の違いによって不安を抱える方を支える側になりたいと考えるようになりました。

センターとの出会いと研究のきっかけ

その後、大学4年生の秋に偶然ウェブサイトでAMDA国際医療情報センターの活動を知り、英語相談員として関わらせていただくようになりました。

実際に相談や通訳に関わる中で、大学の講義や病院実習だけではなかなか知ることのできなかった現実によく直面しました。受診できる医療機関が見つからない、日本の医療制度や受診方法が分からない、言語対応などの理由から受診につながらないといった、医療機関にたどり着くまでの段階にもさまざまな障壁があることを知り、驚きました。こうした問題について自分自身でも理解を深めたいと思い、関連する文献を調べてみました。しかし、医療機関を受診した後の外国人患者さんを対象とした研究はある一方で、「受診したくても、まだ医療機関にたどり着けていない人」がどのような困難に直面しているのかを示すデータは限られていました。

日本プライマリ・ケア連合学会学術大会の会場の様子



ACP日本支部年次総会会場で指導医の春田先生と



そこでセンターの皆様にご相談したところ、長年にわたる多言語相談電話の記録が蓄積されていることを知りました。「どの医療機関に行けばよいのか」「受診できる場所が見つからない」といった、いわば“受診前”の段階から相談を受けているセンターだからこそ捉えることのできる、非常に貴重なデータだと感じました。

研究では、2018年から2024年までの相談記録を整理し、外国人の方々が日本で医療を受けようとする際に経験している困難について検討しました。研究を進めていく中で、センターの活動の意義についても改めて強く感じるようになりました。日本では、JMIP(外国人患者受入れ医療機関認証制度)など、医療機関側の受け入れ体制を整える取り組みが進んでいます。一方で、実際には外国人の方が医療機関を受診する以前に、どこを受診すればよいのか分からない、受け入れてもらえる医療機関が見つからないといった困難に直面することもあります。

センターの相談活動は、こうした「医療機関に到達する前」の段階から相談を受け、必要な医療や支援につなげている点で、非常に重要な役割を担っているのだと、研究を通して改めて実感しました。

研究を形にするにあたり、佐藤さんをはじめとするAMDA国際医療情報センターの皆様には相談記録の確認を含め、本当に献身的にご協力いただきました。また、指導医の春田先生をはじめ多くの先生方にも何度も相談に乗っていただき、さまざまな視点からご助言をいただきました。↗

日本プライマリー・ケア連合学会、ACP日本支部年次総会、WONCA Europeでの発表

その後、センターの相談記録をさまざまな視点から分析し、日本プライマリー・ケア連合学会では日本を訪れた旅行者が直面する医療アクセス上の課題について、ACP日本支部年次総会では医療通訳記録について発表しました。ありがたいことに、両学会で賞をいただくことができ、発表後には多くの先生方から「非常に貴重なデータですね」と声をかけていただきました。普段は表に出にくい「受診前の困難」や、実際の相談現場から得られた記録を研究として示すことの意義を、改めて実感する機会となりました。

さらにWONCA Europeでは、日本に居住する外国人の方々が医療を受ける際に経験する課題について発表し、海外の医療者の方々にもセンターの活動を紹介することができました。国や医療制度は異なっていますが、言語や文化、制度の違いによる医療アクセスの問題は多くの国に共通する課題です。日本でセンターが長年積み重ねてきた活動や、そこから見えてきた課題を海外の方々にも知っていただけたことは、私自身にとっても非常に貴重な経験となりました。

WONCA Europeでの様子



学会発表を終えて

今回の研究を通して、日々の一件一件の相談が、その方を必要な医療につなげるだけでなく、積み重なることで、これまで十分に見えていなかった社会の課題を明らかにする大切な記録にもなることを学びました。センターで活動を始めた当初は、ここから研究や発表につながるとは想像していませんでした。今回の経験を一つのきっかけとして、外国人の方が言葉や制度の違いによって必要な医療から取り残されることのない環境づくりに、今後も少しずつ貢献していきたいと思っています。

最後になりますが、本研究ならびに学会発表にあたり、多大なるご協力をいただいたAMDA国際医療情報センターの皆様、そしてご指導くださった先生方に、改めて心より御礼申し上げます。

小谷のニューヨーク通信 No.3

1. 【研究紹介】多言語・文化背景を持つ移民高齢者の介護課題

5月に開催された「2026 AcademyHealth Annual Research Meeting」にて発表した研究について、概要をご紹介します。

演題名: *Service Utilization and Care Barriers for Multilingual Immigrant Older Adults with Cognitive Impairment in Long-Term Care Settings: A Scoping Review* (長期ケア施設・サービスにおける認知機能障害を有する多言語移民高齢者のサービス利用とケアの障壁: スコーピング・レビュー)

【研究の背景・目的】 世界的な高齢化に伴い、「認知機能の低下」と「言語や文化の多様性」が交差する現場において、いかに質の高い長期ケアを提供できるかが大きな課題となっています。本研究では既存文献を網羅的に検討し、多言語を使用する認知症の移民高齢者が、長期ケアを利用する際のアプローチやアクセスの障壁を整理しました。

【主な結果】 抽出された868件の文献から27件を分析したところ、以下の点が明らかになりました。

ケアの決め手: 母語でコミュニケーションが取れるスタッフの存在や、各人の文化に配慮した日常ケアが、サービス利用の満足度を高めていました。

主な障壁: 誰にでも同じ対応をする画一的(one-size-fits-all)な制度設計や、「施設入所」に対する移民コミュニティ固有の心理的抵抗感(スティグマ)が、利用の大きな妨げとなっていました。

詳細な方法、結果、考察については、現在投稿中の研究論文が受理され次第、改めてご報告できればと思います。

2. 【NY滞在記】NYでの初夏の様子

渡米して早くも1年が経ちました。生活にも慣れた6月、日本から家族が訪ねてきたのを機に、ようやくNYの観光地を巡ることができました(右写真)。5月は35度を超える猛暑続きでしたが、6月は28~30度前後でした。日差しは強いですが、湿度が低く過ごしやすい気候です。真夏でも日傘をさす人はおらず、公園でタオルを敷いて日焼けを楽しむ光景があちこちで見られます。日本の「美白文化」とは異なる美の定義を新鮮に感じる一方で、今年の初夏は特にバスケットボールとサッカーで街全体が大きく盛り上がりしました。文化による価値観の違いを感じつつも、スポーツのように国や文化を超えて人と人とを繋ぐ力があることを肌で実感しました。

ロッタリー(人気のブロードウェイミュージカルのチケットを抽選で格安で購入できるシステム)が当選したためアラジンを見てきました→

New York Yankees
の野球観戦もしました



←
おしゃれで人気を集めている街DUMBO
(Down Under the Manhattan Bridge Overpass)から撮ったManhattan Bridge

3. 【アメリカ時事】11月の中間選挙に向け、熱気を帯びる現地

米国では今年11月3日に「中間選挙(Midterm election)」が行われます。9月に入り、現地では政治への関心が急激に高まっています。

◆ **中間選挙とは?** 大統領の4年の任期の中間に行われる国政選挙で、連邦議会(下院・上院)の議員を選出します。アメリカの政治は、大統領(行政)と連邦議会(立法)と司法(裁判所)が互いの抑制と均衡を保ち、権力の集中や濫用を防ぐ仕組みになっています。議会の過半数を大統領の野党が占めると、法案や政策・予算の通過が厳しくなるため、政権運営の行方を左右する極めて重要な選挙です。

◆ **9月~10月の動向** 9月中旬には各地の予備選挙が終わり、「共和党 vs 民主党」の対決構図が確定します。また、9月最初の月曜日「レイバー・デー」を境に大規模な選挙広告が解禁され、有権者の関心が一気に高まります。秋にかけてテレビ討論会や期日前投票が本格化していきます。今後の選挙の動向と11月の結果に、ぜひご注目ください。

私たちの活動

<https://www.amdamedicalcenter.com/>



アマダ こくさいいりょうじょうほう
AMDA 国際 医療 情報 センター

LINECALL→



でんわ いりょう そうだん
電話医療相談 10:00～16:00
でんわ いりょう つうやく
電話医療通訳 10:00～15:00

0120-339-266
(03-6233-9266)

しゅくじつ 祝日、12/29～1/3は休み

にほんこくない そうだん おう
日本 国内の相談に応じます

※ベトナム語・インドネシア語はウェブサイトのカレンダーを見てください
※相談・通訳は0円です

げつ	か	すい	もく	きん
にほんご	にほんご	にほんご	にほんご	にほんご
えいご 英語	えいご 英語	えいご 英語	えいご 英語	えいご 英語
かんこくご 韓国語	ちゅうごくご 中国語	ご スペイン語	ちゅうごくご 中国語	ご ポルトガル語
ご フィリピン語	ご タイ語			

英語・中国語・韓国語・スペイン語・
フィリピン語・タイ語・ポルトガル語・
ベトナム語・インドネシア語に対応

ベトナム語・インドネシア語は対応日
が毎月変更します。WEBサイトでカ
レンダーをご確認ください

三者通話機能を使用して、医療機関
への予約支援も行っています。ご利用
ください！

医療機関からの相談&通訳予約はこちら

090-3359-8324

平日9時-16時

※2026年3月より電話番号が変わりました

ご寄付のお願い

AMDA国際医療情報センターは、皆様からの会費と寄付により運営されています
温かいご支援をどうぞよろしくお願いいたします
なお、当センターの運営はAMDA(本部:岡山県)とは別会計で、当センター独自の会員制度となっております

会費・寄付の振込先①

クラファンサイトやソフトバンクのつながる募金を利用して、オンラインで
お手続きできます。単発・継続など支援の形は自由に選択可能です。

1. Syncable(シンカブル)
クレカ払いOK 領収書発行対応

2. つながる募金
クレカ払い、paypay払い
ソフトバンクポイントで寄付、
月々の利用料金とまとめて寄付が可能
領収書発行対応

寄付総合案内



オンラインでの
手続きがオススメ！

会費・寄付の振込先② 郵便振替が利用できます

郵便振替 00180-2-16503
加入者名 AMDA国際医療情報センター

銀行振込をご希望の場合は090-3359-8324にご連絡下さい
(平日9時-16時)

賛助会員 年会費 年度は4月1日から3月31日まで

団体 20,000円 学生 2,000円
個人 6,000円 中学生以下 1,000円

- 団体・個人会員は半年ずつの分納が可能です
- 賛助会員は何口でも加入いただけます
- 初年度時、10月以降に加入の場合は以下の通りです
団体10,000円 個人 1,500円

小林国際クリニック 脳神経内科・外科・消化器科・小児科
TEL 046-263-1380

平日 午前9:15-12:00/午後2:00-5:00
土曜 午前9:15-午後1:00 休診日 水・日・祝

〒242-0005
神奈川県大和市西鶴間3-5-6-110 小田急江ノ島線 鶴間駅 4分
<https://5884-international-clinic.com/>

S N S 更新中



<https://www.facebook.com/AMDAIMIC>



<https://x.com/amdaimic>



<https://www.instagram.com/amdamedical/>

事務局長 活動報告

2026年

4月2日 タンザニア大使館 訪問

5月14日 日本・ラテンアメリカ婦人協会 寄付金贈呈式兼懇親会 出席

6月18日 AMDA国際医療情報センター総会 開催

当センター メディア掲載情報

2026年

5月14日 Leverages Global(レバレッジズ株式会社)「多言語相談と医療通訳で「医療アクセス格差」の解消に取り組むNPO法人」

5月27日 社長！あなたの会社教えてください。(金沢シーサイドFM)